秘

調査資料第一輯

一九一九年の埃及大暴動

朝鮮總督官房庶務部調査課

貴族院
函
号
冊

始

貴族院
函
号
冊

一九一九年の埃及大暴動

ヴアレンタイン、チロル氏が一九一九年三月に於ける埃及大反亂につき同年十月より翌年四月まで、ロンドンタイムス紙に寄せた埃及通信を纒めて一冊とし「埃及問題」と題して刊行した。本書は筆を埃及の近代史に起し、現代埃及の眞相、統治の現況、大反亂の遠因及近因等を詳述し、之か救治策に及んで居る。茲には唯その一部たる大反亂の實況のみを抄譯したのである。（大正十二年八月譯者相川富三郎誌す）

目　次

第一　完全なる獨立の要求
第二　積極的大反亂
第三　消極的大反亂

埃及大暴動

第一　完全なる獨立の要求

埃及獨立黨は世界大戰の終結、平和の克復と共に、埃及の運命は聯合諸國の掌中のものと信じて居つたのであるが、愈々休戰となると、俄然その旗色を變へ、戰勝に對する、埃及の權利と、小國民に對して約束せられた、國民自決の權利とを主張するに便宜なるロイドジョーヂやウヰルソン其の他同盟聯合諸國政治家の言議を研究したのである。

戰前には埃及の自治と埃及人の參政權を擴張されん事を要求して滿足したものが、今や「完全なる獨立」を叫び、英國に即時立退きを迫るにいたつたのである。

休戰條約發布後二日、即ち千九百十八年(大正七年)十一月十三日サアド、パシヤ、ザグラル其の他二三の閣員は總督府に到り、埃及國民の名を以て時の埃及總督サー、レギナード、ウヰンゲートに對して埃及の保護領を廢し、完全なる獨立を承認されん事を要求したのであるが、國民黨の機關紙の報道に依れば、總督はこれに對して、埃及の將來に關する英本國政府の意見が如何なるものなるかを、答ふる能はずと、聲明したとの事である。會見後數日を經てザグラルは全國民の總代として二三の閣員が、英國

に向け出發するにつき、許可を求めたが、總督は本國政府と交渉の上。これを拒絶した。

サグラルはロイドジョーヂ、クレマンソー、オルランド、ウヰルソン等に信書を送つて、大戰中埃及が貢獻した、貴重なる功績を列擧して、埃及の獨立に對して、援助を求めた。

平和會議開催に際しては、獨立黨員よりなる國民代表は、各國の使節に建議書を送つて、埃及の現狀を述べ、英國の統治及び保護の無用なること、戰時中埃及の戰功が著大なりしこと、完全なる獨立、及び單に埃及のみならずスウダンをも領有することは、埃及國民の輿論なること、又埃及全國民の一致を以て、國民代表者を平和會議に派遣せんとしたが、英國政府の許可を得ざりし事を縷々陳情して、各國使節の同情に訴へた。

千九百十八年埃及首相の建議に基き、平和克復後遂行せらる可き、根本的行政改革の方法を立案すべく、英、埃合同の委員會が設立せられた、而して時の司法省顧問ウヰリアム、ブラニエート氏が立案の任に當つた、氏の立案の特徴とも見るべきものは、兩院より成る立法機關の創設であつて、既設の國民議會には何等の新生面をも與へずして、これを下院とし、上院に隷屬せしめた、上院は資力に乏しき埃及人を度外視して、英人顧問官、埃及國務大臣、有力なる民間の英人、其の他の外國人のみが、議席に列し得る制度であつたので、埃及人の猛烈なる反感を起した其の結果遂に司法大臣とブラニエート氏が渡英して、本國政府と交渉することになつたが、本國政府は平和會議の爲めに埃及事件を論議するの餘裕なしとして、埃及使節を拒絶したので、遂に三月一日埃及內閣は總辭職した。平和會議に埃及代表者の參列し得なかつたのを不快に思つて居た埃及人は、今や又、埃及使節を拒絶せられ、益々憤怒の念を昂めた。四圍の事情斯くの如くであつたので、獨立の氣勢は愈々高まるのであつた。遂に各地方に獨立委員が出來た。獨立宣傳の集會が各地に催された。獨立請願書の調印が各地で繰められた。

各地の新聞紙が一時に憤起して、獨立の氣勢を添へた。然し乍ら獨立運動は、未だ定規を踏みはずさなかつた。當時、英國政府は、國民黨の運動をば、少數不平政治家の淺薄なる宣傳に基くものと誤解し二三首領に打擊を加ふれば、即座に根抵より鎭壓するものと信じた。

千九百十九年三月六日午後六時軍司令長官ワットソン將軍は、ザグラル外九名の獨立黨員を召喚し、埃及に於ける英國の施政に反する彼等の言動に付き嚴戒を加へた。尙、埃及の治安と、行政とを妨害するが如き擧動を改めざれば、嚴重なる處置に及ぶべきを訓示した。然るに黨首等は、却つて之に憤激して司令長官に對する抗議書を製作して之を全國に配布した。英官憲はこれを不都合とし翌八日ザグラル外三名の有力なる國民代表者を捕縛し、翌朝彼等をマルタに護送した。これを知るや、アレキサンドリヤよりスウダン境に至るナイル河流域の埃及人の激昂は極度に達した。

その後二三週の間に起つた重大事件と、容易ならぬ形勢とを記述する前に、國民黨運動の背後に横はる眞の勢力を考察する必要があると思ふ。

此運動は決して新規突發のものではない。其の端を遠くアラビー時代の準軍隊的謀反に發し、クロマー總督辭任の少しく以前に再發し、キッチナー總督が一時これを鎭壓したが、埃及王アバスに激勵利用せられて、代議院に活動し、又マホメット教徒の反感に乘じて、盛んに英國の統治に反抗したものである。

エルアザル大學の學生も歐洲風の教育を受け、西洋主義の自由とか、民主制度の効果に感染して、「完全なる獨立」の熱心なる戰士となつた。智的勞働階級の殆んど總てが民族主義となり、新聞紙上盛んに反抗の聲を揚げた。

各官公署に於ける英人官吏の急激なる增加と、その一部の者の、埃及人の同僚に對する矯慢なる態度とは、一般の埃及人官吏を民族主義に傾かしめた。埃及人中の戰爭成金は、民族的思潮にかぶれ、政治的活動に興味を有するにいたつた。何處も金が煽動の必要條件だから、埃及でも政治は儲かるばかりでなく、都合のよい愛國的商賣となつた。獨立運動者中には劣惡な分子も多かつたが、中には眞面目なる目的を持つものもあり、又戰時中、聯合國政治家が高唱した、高遠なる理想を確信したものもあつた。ウサルソンの所謂「弱者の權力も强者のそれと等しく神聖なるべし」には深く共鳴したものである。戰前には、埃及民衆にとつて、政治上の學說、議論等は何等の意義をなさなかつたのが、他國に於けると同樣埃及に於ても生活の狀態、特に物價の大騰貴が、社會的不安の波濤を捲き起したのである。

黨人等は政爭の續く間は、衣食に窮せぬので、消極的反抗を呈しながらも、英國の保護領たるに甘んじたが、都會地の貧民等は、保護領宣布以來、次第につのる彼等の苦痛と、狡猾なる宣傳とに乘せられて。彼等の苦難は保護統治より來るものと思ふにいたつた。彼等は保護と奴隸とは同一であると思つた賃金も騰るには騰つたが、生活上の必要品の騰貴とは、歩調が合はなかつた。土地を所有せぬ郡部の勞働者も同樣であつた。市部の下層社會、職工、挽子、御者、小商人、其の他の使用人の窮狀は一層甚しくとても收支相償ふ筈がない。

此等無智の下層民が、從來曾て見ざりし程に、英國人の入國するを見、自分の貧困の狀態と、彼等の眼に映ずる英國人の豐富潤澤とを比較したる時、かく埃及國民を無限に奴隸の狀態に陷らしむるものは英人と其の保護政治であると、敎育ある同胞に煽動されて、直ちにこれを信じたのに何の不思議もない又その唯一の救濟策は、埃及全土より英人を放逐することで、幸福なる目的に向ふ第一歩はザグラル一派の群に投じ、彼等を保護統治より救濟し、民族獨立の黃金時代に導くべき憂國者と、事を共にすることであると信じたとて、何の驚くこともない。

大多數の農民の慘苦は、更に現實的であつた。大戰中埃及農民は、人夫として多數戰場に使役されたが講ぜられなかつた。若し戰役の止むと共に、彼等農民の戰捷に貢獻せし所多大なるに係らず、軍事上而も監督の不行屆から、戰場の常として、多少の虐待を受けたが、休戰となるも、何等有効なる慰藉法

止むを得ずして、彼等を艱苦、缺乏に陷らしめたる事を認め、事實の調査をなし、慰撫の方法を取つたなら英國の不信、不正、不名譽を幾分にても挽回するを得たであらう。

又機敏に十數萬の金を散らせば、彼等の輕舉盲動を除く効能があつたであらう。埃及の勞力と物資の補給がなかつたら、シリヤの遠征は不可能であつたのであるから、彼等に對して多少感謝の意を表したとて戰捷の名譽を毀損することもあるまい。彼等の功勞に對して一言半句すら、慰安の言葉も發せられず、給料の支拂さへ幾日も滯りがちであつた。斯くて彼等農民は、英國人なるものは、埃及占領當時の如き、親愛なる友人ではなくなつたと思ふたのである。彼等には戰時中の「奴隷の境遇」と「保護統治」との間に因緣があり相に見へたのである。そこで多數の農民も亦救濟を獨立黨首領ザグラル一派に望むに到つたのである。

斯く社會の各方面に反英の氣が充滿したのであるが、これを統一するには、裏面に潛在する或る力がなければならぬ。

元來東洋は秘密結社の行はれる所である。それに西洋と接觸してから、裏面の組織如何にかゝはらず大なる政治運動を起すことを知り、公々然と、圓滑なる運動をなし、而かも輿論の後援を有すると廣言して居る。印度然り、ペルシヤ然り、支那然りである。

埃及が土耳古國民主義の感化を受くることの痛切なるは無理もないことである。長く統治者の位置にあつた土耳古に對し、親和するのも自然である。而もイスラム教の信仰がある、又パミッド暴政時代には埃及は土耳古の逃亡政客の避難所であつた。埃及の王家を始め、多數の有力なる家族は、今に濃厚なる親土派である。又千九百八年の土耳古革命後は御都合次第で埃及國民黨ともなれるアバス王や、戰前の國民運動の首領等は土耳古青年黨と密接なる關係を保つたのである。

土耳古國民黨と、埃及國民黨とが、直接に聯絡を保つて居ると臆斷する必要はない。それは、兩者の終局の目的は、互に相容れないのである。併し、埃及の政府は其の範を土耳古に取つて居ることは疑ふ餘地がない。土耳古は剛勇の點に於て優り、埃及は變通性に於て優る。埃及は國際關係の消長と、西洋各國民の特徴を利用するに巧妙を極めて居る。又埃及國民黨首領と露國過激派との間に聯絡があると臆斷するの理由は更にない。併し過激思想は東にも、西にも、普ねく瀰蔓して居つて、何か猛烈なる政治運動が起ると其の大多數のものが、平和の手段を希望しても、其の運動には無政府主義の先天性を帶びた雷同者があつて、平和を亂すのはいつもこの連中である。この附和雷同者が、不規律なる戰士を叙爭場裡に補給して、過激な行動を取り、埃及國民黨の不信を來したのである。不幸にして國民黨首領が之を排斥することをせず、時には、之を統御するの實力を缺いたが爲めに、重大事となつたのである。

第二　積極的反亂

千九百十九年三月九日午後、ザグラル外國民黨三首領の捕縛の報は、民心に火をつけた樣なもので其の事が一夜の内にカイロ全市に傳はつて、翌朝は大騒動となつた。何時もながら眞先に騒いだのは學生である。彼等は同盟休校し、喧々として市中に溢れ出たのである。古風なエルアザル大學より、現代式の法學校の生徒等が、マホメット教の反動的精神と、歐洲流の革命的傾向を發揮して埃及國民主義と云ふ大潮流をなしたのである。次で立つたのが商業、工業、醫學校の生徒である。群衆は停車場外に集合して四人の首領等のマルタに護送せらるゝのを見送らんとしたのである。然るに四人の者は既に出發後なるを聞き、多數の小部隊に分れて、學校、官署又は民衆の娯樂場に走せつけ、首領捕縛の報を傳へた。學生の活動は直ちに効果があつた。

同日中に市内目抜きの場所で、街燈や、電車が破壞された。十日の朝、幾群の無頼漢や、罷業の職工が、市内各所で示威行列をして、大臣官舍に押し寄せた。又商店其の他公共の建物を破壞した。列車に投石した。電車内でも猛烈な爭鬪が行はれた。警察官では鎭壓の効がないので、正午頃守備兵の援助を求めた。砲火は群衆に向つて放なれた。負傷する者や縛に就く者が多かつた。

十一日も前日同樣、市内はまた大騒動であつた。今日は一般學生や市民の聲ばかりでなく、官吏の一部と辯護士連が加はつた。土民間では、各所に集會が催され、何人も干渉する者がない。ザグラルの住宅は從來獨立黨の參謀本部であつた。ザグラル捕縛後も國民黨活動の中心となつた。カイロ市や地方の學

生、官吏、辯護士、貴族等の總代が、同家に詰めかけて、絶へず會議を開き、死力を盡して英國の統治に反抗する事となつた。各國公使館に代員を派して同情を乞ふた。又各地には特使を派して、同志の立つ可き時だと激勵した。暴動は首領等が豫期せし以上に重大となつた。その狂氣の狀態はとても手もつけられぬ、放火狂のそれである。煽動者中には消防夫等も居つて、兇惡なる暴行を敢てしたものである元來、首領等は掠奪や、歐洲人に對する暴行、財産の破壞、官吏との紛議は避ける豫定であつたにも拘はらず、實際は虐殺、掠奪放火が行はれた。始め三日間は、示威運動の行はれたのは、カイロに限られたが、十二日にはその勢力が市外に及んだ。農民が鐵道や電線を破壞しかけた。各地に暴動が頻發した。タンタでは暴徒が兵隊の守備してゐる停車場を襲擊して流血の慘劇が演ぜられた。そして十四名の死者と五十名の負傷者を出した。暴徒中、鐵道破壞を企つるものがあつて、裝甲列車を發したり、飛行機を飛ばし、鐵道、電線、電話を破損せしもの、又は之を爲さんとするものは射殺すると威嚇した。アレキサンドリヤは比較的冷淡であつた。十二日は學生の示威行列位ですんだ。併し裁判所はカイロでもマスラでも辯護士が出廷しないために、裁判は全然休止となつた。其の他の地方に於ては、民心甚しく激昂するに到らなかつたが、煽動者はカイロ及びタンタで官憲が銃火を用ひたのを、好機逸すべからずとして、盛んに反英の氣勢を高めた。それで今日まで無關係の一般民衆迄が、動搖し始めた。

彼等は掠奪は阻止せねばならぬと思ふた。又示威運動者の暴行も不都合としたが、何故に銃殺しなければならぬか理解しなかつた。かゝる事はクローマー總督時代にもない。キッチナー總督の時代にすらなかつた。此慘事は保護統治の副産物かとの疑問を起さしめた。暴動發生後二三日間に行はれた、軍隊の殺傷事件は暴動の傳播に大に効があつた。英兵と衝突の際銃殺された暴徒の死體は、盛んなる葬儀を行ひ、葬列は市中を進行し、所定の場所に停止して、痛烈なる哀悼の演說をした。葬列に加はり悲鳴を擧げて追吊する婦女子は、民心を鼓舞するに、最も有力であつた。十四日寺院外に於ける狀況は、今回の大暴動中最も悲慘なる暴行の序幕であつた。三月十四日會衆が祈禱を了へてエルアザールの寺院を出でると、小部隊の英兵を乘せた、偵察用の自働車を認めた、暴徒は聲を擧げて之に向ひ突進した。銃を持てるものは發射した。兵士は之に對し應戰した。暴徒中十三名は死し、三十名は傷いた。同日午後、カリアブで一英兵が虐殺された。カイロ行の乘客用列車は二三千の村民に襲擊された。列車内には數名の英國士官と兵士が同乘して居た。彼等は拳銃で暴徒を防ぎ漸く列車をカイロに着けたが、カリアフ驛は暴徒に破壞されてしまつた。

十五日には、暴動は上部埃及に擴つた。レッカではカイロ發の朝の急行列車が、暴徒に襲擊され。乘客の荷物は悉く奪はれた。驛は燒打ちにされてしまつた。

ワスタでは數個の客車や、貨物列車が全滅した。國有鐵道の一官吏は虐殺され、内務部の一官吏は漸くにして一命を全ふした。ワスタ驛は暴徒の爲めに放火されて消失した。ハワムデーでは廣大なる製糖會社が村民に攻擊されたが警官が漸く防止した。ペニスエフでは群衆が審判中の裁判所を襲擊して官吏を追ひ拂つた。英國裁判官を捕へやうとしだが不成功であつた。それから各種の官衙を襲ふて破壞した同日午後ベトイン族は侵入して、市中を掠奪し、英國人の潛伏せる三軒の家屋を包圍したが、フエユムから急派された印度兵が辛うして防禦した。下部埃及では、カリウブ、ベンハ間の鐵道幹線が破壞され、カイロと三角洲地方との聯絡が絶たれた。十六日は事態は益々重大となつた。三角洲地方中ミネエルクオムが暴動の中心であつた、附近の村落から集まつた暴徒が諸官署を襲ひ、囚人を解放した。次で停車場を襲ふたが、守備兵に擊退された。此際、暴徒三十名は死し十九名は負傷した。ガービエー縣のタラー其の他の地方では、鐵道の支線が破壞され、停車場が包圍された。ザガヂックでは縣廳を攻め、囚人を解放せんとした。上部埃及ベニスエフでは、英人の包圍が依然として繼續したが、十八日カイロから救護隊が到着して、婦人と小兒は他に移された。

十七日殘りの電信、電話が全部破壞せられて、カイロは飛行機及無線電信を以てする外、全く孤立の狀態となつた。併し官憲は一般民衆の輿論の秩序ある發表には干渉しなかつた。それで公安を亂さないことを誓つた國民黨の首領株を人質として七八千名の示威行列を許可した警部長が自働車で先導した。主なる町を通過して、各國領事館前で埃及獨立の萬歳を高唱した。何等の不祥事も出來せずして解散した。

併しアレキサンドリア市では熱狂せゝ學生、勞働者が軍隊の警戒線を突破せんとして、十四名の死者と廿四名の負傷者を出し。二百五十名捕縛された。其の他各地の暴動は愈々猛烈となつた。十二日アレンビー將軍がバリー行の旅程に就くと將軍に代りて軍司令長官の任務を代理したバルフイン將軍は、十七日夜カイロに到着した。之より先き、カイロ軍司令ワットソン將軍は獨立黨委員を招集して軍隊も無限に寛大の態度を支持し能はざる旨を傳へ、委員等は騷擾を煽動したるものであるから、之が鎮壓を計る可く嚴命し、若しこれに應せざれば、非常手段を取ると傳へた、そこで委員等は最善を盡して鎮壓に勉めても、事態が重大で到底彼等の力を以ては鎮靜の見込がないと答へた。バルフイン將軍はカイロ到着後、直ちに獨立黨委員並びに貴族を集めて再び先きの注意を與へ、且つ告ぐるに、從來防禦的手段を用ひ來りしも、攻擊的態度をとるの止むを得ざるに至るならば、傷害の程度も甚だしくなるから、埃及人も官憲と手を合せなる可く流血の慘を見ざる樣、彼等の協力を求めた。バルフイン將軍の訓示が功を奏したのは、數日後であつた。而も其の數日間に慘事が行はれたのである。鐵道、電信、電話、銀行、官公署、田圃其の他の財產の大破壞が行はれた。チフタサガヂック、ミニエ、等には臨時共和政廳が開設され各村落にも、民衆の役場が設けられた。

上部埃及のディラット市の擾亂は慘の慘なるものであつた。右につきアレンビー將軍よりの外務省宛の公報を左に拔萃する。

十七日午後六時ラクサル發列車に英國士官二名卒八名乘車せり。ナツグ、ハマヂー驛に停車するや數名の土民列車に侵入し來りて英兵を侮辱せり、士官はこれを知りて土民を一等客車に連行して、爭鬪を未然に防止せり。十八日早朝アシアット着、土民三名下車、同四時アシアット發、無事數驛を通過す。各驛共に多數の土民集合し、「英人、英人」と叫びながら機を見て侵入せんとせり、ディラットに着車するや、夥しき土民は列車に突進し、運轉手を追ひ拂ひ遂に一等客車に侵入せり。一行中二名の英人は此の際、殺害されたるものの如し。汽車は進行を繼く。數名の暴民同車せり。デルモワスに着車するや、一群の暴民客車に侵入し、英人一行を石又は小刀を以て悉く虐殺せり。英人中武裝せるもの一人もなし。汽車は屍體を乘せたるまゝ發車せり。

其の後、汽車は益々進行し、各驛を通過する毎に暴民群集し、英人虐殺の報を得て、萬歲を唱へたり。屍體は、識別する能はざる迄に、蠻行加へられたり。或者は脚部を切斷され、その血を啜れる暴民ありと、得意に之を吹聽せし者あり。地上に臥せられたる屍體は唾せられ、汚物をふりかけられたり。群集は之を見て一同歡喜の聲を上げたり。

かゝる暴行をなせるは、單に無智の村民許りではない。八十名餘は裁判に附せられた。中には村長、教員、地主、辯護士、巡査、學生、農民等が居つた。五十一名は死刑の宣告を受けた。曩に述へたベニスエフの歐洲人は十八日救濟された。併し暴動は驚く可き速度で、上部埃及全部に及んだ。ミニエでは

英兵の屍體を乘せた汽車が着いてから、民心が大いに動搖した。掠奪が盛んに行はれた。官憲の威力は墜ち實際の權能は暴徒等の臨時政廳の手にあつた、救助船が來て、此の地方の歐洲人がカイロに移されたのは、二十二日の事である。

アシアットも亦騷擾の街と變じた。英米其の他の外人は一家屋に集まつて防禦した。百名ばかりの、パンチツヤブ人が機關銃二、レウイス砲一を以て防禦したが、甚だ手薄であつた。暴民は農民及びヘドウイン族等三千は確かに居つた。皆拳銃ライフル銃、鎗、又は舊式の刀劍で身を固めて居つた。

襲擊は二十三日から廿五日迄繼續した。二百五十の愛蘭兵が來着したので、漸く救助せられた。バルフイン將軍の計畫が着々實施せられて形勢を制する時期が到着した。自働車隊が幾隊も編成されて、三角洲地方には自働車網が張られた。シー將軍の膺懲軍が上部埃及に向つて進軍した。鐵道の修繕も進行して十九日には客車がカイロを發してアレキサンドリアやホルトサイドに向つた。

其後次第に暴動も終息した。左に軍司令部發表の日報を略記して暴動談を結ぶことゝする。

三月二十一日カイロ以北の地方にありては、重要なる交通機關が回復した。主なる停車場が占領され警備線が張られた中央三角洲地方及びそれ以東の地方では暴徒が猶、破壞掠奪を逞ふして居る。偵察用飛行機を砲擊するものあり。夜間斥候を襲擊するものがある。

三月廿二日官軍占領地區域の擴大さるゝに從ひ、秩序も次第に回復されつゝある。カリアブ縣は全く沈靜に歸した。それ以南の地方にても、將に平靜に歸せんとして居る。掠奪された財產も大方は回收された。これ地方警官の忍耐と勇氣と剛毅との結果である。

三月廿三日鐵道の幹線は定刻に運轉して居る。三月廿四日北方の各縣では暴動が間渴的になつた。併しヂフク、ミツドガムル、ミツトエルガラシー等は未だ不逞の中心である。廿二日西ベヘラのベドウイン族及び村民を膺懲した。鐵道破壞中の反徒に爆彈を投下した。純良なる一千名の村民は鐵道防禦の任に當つた。アシウトでは放火か未だ止まぬ。

三月廿六日郡部よりの報告によれば、先きに交通機關破壞の際、國道及水路も甚だしく破壞されたその內南ダクリエ及びベヘラが最も甚しかつた。甚しきになると灌漑用の水路を破損し水栓を持ち去つたものがある。橋梁を破壞し、水を櫃き止めて水害を與へたものもある。

三月廿七日或る地方では貴族が公安維持會を組織し官憲を助けて居る。

三月廿九日新たなる暴動の報來らず。ハツドルストン將軍の膺懲軍はアシウトに在り。シー將軍は益々南進中である。

三月卅一日上部埃及の鐵道復舊工事に從事せる技師の報告によれば、損害甚敷やうである。當分南部地方との交通は水路を取るの外ない。

四月一日下部埃及にては十六個の自働車隊活動中である。

四月四日自働車隊の外に裝甲列車を以て警備をなし又川や運河にも、水上警備を行ふ。また文官との協力により、三角洲地方に於ては一般の情況が平常に復した。暴動以前より良民から金品等を詐取して生活した不良の徒も、此の際一掃することとなつた。鐵道の運轉も南はベバに至る迄囘復した。

四月五日上部埃及に於ても、下部埃及に於ても、停車場、信號機等が、破壞されたから、客車幷に貨車が正規の運轉を見るは、長き將來のことである燈火等も破壞したのたから、夜の運轉も當分出來ない。カイロとミニア諸官廳の職員の執務狀態が平常に復した。又地方によりては暴動が全く沈靜したので日沒後の行動を禁止する要も薄らいだ、

四月十一日埃及全土を通して各方面とも大體平穩である

以上日報終

四月十八日シー將軍がアツスアンに到着した頃は暴動も大體終熄したが、その後も折々暴動が勃發し、時には武力の抵抗を試みることもあつた。併し三月末には反徒の猛威は防止された 三週間の暴動中埃及は到る處破壞の跡を印した。當年度の豫算には遭難者救濟の爲め一百萬ポントが計上された、鐵道線路停車場、電線、電話、官公署其の他の損害は實に莫大なる額に達するであらう。埃及の生命なる水利工事に損害を加へたるが如きは、激昂の際とは云ひたがら、不謹愼も甚しい。尙此暴動により、平素純良にして、好人物なる埃及人も其の熱情が白熱化せる時、眞の不平に基きて狂的煽動を加ふれば、彼等が極度に慘忍にまた血に渴けるものとなることを示したのである。

又此度の暴動から幾何かの個人、それも多くは地方の官吏が感心すべき善行をしては居るが、大體から云ふて、平素良民と呼ばるゝものが、虐政のもとに蠻伏に順れた國では、如何に憶病で意氣地なしであるかが知れた。暴動の版圖は隨分擴大したもので、これを鎭壓するには大部隊の英兵を要したものだ。鎭壓は峻嚴に行はれた。併し復讐的ではない英兵が平素の通り克己の精神を發揮し、忍ぶべからざるを忍び、鎭撫の任務を盡せしは、多とする所である。戰時中、英國の文武の官吏に行はれたる非行は大動亂の種子を蒔きしものなれば、如何に重大なる責任をも辭されない。然るに一端大動亂の颶風襲來して、埃及を無政府の狀態に陷れたる際聽病なる態度を取つたならば、更に大なる責任を負はねばならかつたであらう。埃及を無政府狀態から救ふのは埃及に對する英國の任務である、幸に埃及は救れた。

第三　消極的反亂

埃及暴動突發の當時、ウヰンゲート總督は、歸英中で、ミルン、チータムが總督代理を務めて居た。又暴動の最も猛威を逞ふした時、軍司令長官アレンビー將軍は平和會議參列の爲め、パリー滯在中であつた。英內閣も埃及暴動の勢力日々旺盛に赴き到底二三の首魁を嚴罰した位で、鎭壓せらるべき簡短なるものでなく、埃及全土に涉る國民的重大事であることを認容せざるを得ざるに到つた。併し何等の對策も

なく、又國家有事の際、之を考究する閑もなかつた。幸ひ「强き人」が手近に居つたので、不取敢、アレンビー將軍を煩はすことにした。將軍はパリー滯在二日にして、埃及に引き返へした。將軍今回の行は軍事、民政に關し最高の權能を附與され、秩序、安寧を恢復するには、如何なる方法をとることをも、許可されたのである。將軍は三月廿五日カイロに歸着したが、其の頃三角洲地方の暴動は略平靜に歸して居つた。カイロに於ては三月初旬猛烈なる示威運動があつたのみで、爾來公安は甚しく冒されなかつた。併し、表面は遠うねり位に過きなかつたけれども、下流には未だ、危險なる底うねりが止まなかつたその危險の兆候は各種の同盟罷業である。罷業のうちには、始めは、經濟上正當の理由、口實ありと認めらるゝものもあつたが、今や煽動政治家の繰る所であることが、明瞭になつた。鐵道や、電車の業務員ばかりでなく、撒水夫迄も罷業をした。隨分有利な條件で復業しても、二三日經つと、また罷業をした。學生兒童に到る迄、愛國心を發揮するために絶へず教室を脱出して示威運動をした。辯護士も手本を示めす氣で、裁判所に出廷することを拒んだ。併し際限なく罷業をしては、辯護士法違反になる。それで、登錄はすれども、實務には當らぬと云ふて法の制裁を免かれた、併し之も一時の事で程なく出廷するものと思はれたが、裁判の事務が甚しく滯滯するので、政廳より裁判所に對し、裁判は平素の通り進行せしめ、正當の理由あるにあらざれば、延期すべからずとの示達を發したところ、反つて辯護士の反感を强めた、辯護士は之を以て彼等の威信を損するものとして反抗し、屢々會合を催して、盛んに討

議の末、司法大臣に抗議書を提出した。自から普通人以上に教育ありとし、單に責任ある業務に從事するのみならず、埃及の知識階級を代表すると自任するものが、司法權の停止を來しながら、之を以て愛國的義務なりと考へつゝありとは信じ難い。

猶、甚た遺憾なことには、この同盟罷業病が官吏社會に傳染した、始めは、工務省の官吏のみが罷業した。それも、ザグラルに同情を表する爲めに、一日罷業したに過ぎなかつた。かく一般市民の騷動最中にも、靜かに勤務した官吏が、アレンビー將軍歸任の日に俄かに形勢一變して、官吏特別委員會の選定となり、公吏として、國家の一大事に當り、如何なる行動を取るべきかを、考究することゝなつた。此事に最も奔走したのが、工務省の次官であつた。之を要するに、政府部内に、かゝる行動の起つたのは消極的謀反であつて、アレンビー將軍も、一面各地の暴動を鎮壓するとともに、一面これに當らねばならなかつた、各省大臣は終に辭表を呈出した。埃及は、今や、無政府の、狀態である。それで、アレンビー將軍は、歸任の翌日、一部の有力者を總督府に召集して、本國政府の訓令に基き、將軍のとるべき、三大要務を說明した。即ち第一は公安の回復、第二は不平の原因の研究、第三は眞の不幸の救濟である。將軍は、懇々彼等を訓し、一時の怒を去りて、互に協同して國家の幸福の爲めに、努力すべきことを勸告した。

會見の結果は有望であつて即ちその翌日埃及全國第一流の人士の名を連ねた回文が、國内一般に發送

された。回文の要旨は、埃及國民が速かに平和と安寧を回復せんことを勸誘し、暴行が罪惡であり、又何等の効なき事を力説した。猶無政府の狀態が停止されんことを切實に懇望した。この回文が實際どれ程の効果があつたかは容易に明言されない。又回文に署名したものが、皆均しく平和を愛好したとも判定されない。併し、軍隊の力もあり、平和は刻々に回復されつゝある。

三月三十一日アレンビー將軍は前内閣員及びカイロ市の獨立委員に會見した。その當時、新内閣組織談も出た。前閣員も行政府が、かく混沌たる狀態では、時局解決の望がないので、四名の首領の解放を條件に、復職の意向を漏らした。アレンビー將軍も埃及人民沸騰の直接の原因を除かざれば、埃及内閣と協力の望なき事を知つて居つたので、彼等の希望を納れて、本國政府に彼等の希望を轉達することを約した。遂に、四月七日、アレンビー將軍は埃及人の行動の自由に制限を加へざること、又、マルタに拘禁中のザグラル外三名を放免する事を發表した。其の翌日、パスセン、ラシデー、パシヤを首相として、新内閣が出來た。前閣員は大部分復職した。ザグラル放免の報は、顯著なる結果があつた。數日前迄は、カイロ市に於ても、騷動が繰り返へされた。現に四月三日には一大示威運動があつて、アバーチン街では、或る家から、アルメニヤ人が群衆に向つて發砲し、その一人に致命傷を與へたと云ふので暴徒がその家に放火した。この騒動中英兵が暴徒九名を殺し、六十名を傷けた。斯く騒動が絶へなかつたのが、ザグラル解放の報と共に、カイロ市街は、先には怒りに激したのが、今は歡喜に醉ふが如くであつた。埃及全土を擧げて、ザグラル放免をば、國民的大勝利として喜んだ。埃及及び英國官憲の許可を得て、祝賀の行列が行はれた。そして初めの程は平穩に進行した。元來カイロ市には不良分子が多かつた、熱し易い學生、エル、ブザルの熱狂者、被免の官吏、不平の辯護士、任用漏れの不平家、それに地方から逃げ歸つた、亂暴な煽動家等が集まつた。彼等は自働車隊や飛行機隊には、敵し難いが、裏面から脅威すれば、アレンビー將軍の努力を、無効に終らしむることが出來ると思ふた。彼等は東邦に於て有力なる脅迫手段を熟知して居つた。如何にして同胞の弱點に乘すべきかも心得て居つた。そこで餘り確實にその存在は認められぬが「黒手組」とかその他の秘密結社の勢力が働くのであつた。

此等自棄的分子の勢力がカイロ市民の心理を一變した。四月七日、市民は國旗や、樹の枝をかざして市中に示威運動をした。市民が王城前で祝聲を擧げた時サルタン王さへ、アブヂンの宮殿から之に應答された。ラシヂー、パシヤも熱狂せる官吏の一群に胴上げされた。黨首ザグラルの住宅は人氣の中心であつた。各國領事館前でも、同盟國萬歳が高唱された。英國萬歳の聲も折々聞へた。かゝる混雜の中に二日經つたが、遂に軍隊との衝突を惹起した。一名の英國大佐と二名の卒がアバーヂン街で殺害された英國人が單獨で外出するとよく襲擊された。四月九日から十一日迄に四名の英國士官が負傷し、卒八名死し、十五名傷けられた。暴徒の襲ふたのは英人ばかりではなかつた。或るアルメニヤ人が四月三日群衆に向つて發砲したので、埃及人の怒を買ひ、七名のアルメニヤ人が警戒區域外で殺害された。その後

アルメニヤ人に對する復讐心が、益々激しくなつたので、カイロと、アレキサンドリアでは、アルメニヤ人を安全地帶に移して保護をした。

斯くの如く、不祥事が頻發したけれども、軍隊は指揮よろしきを得て、大暴動の發生を防止して、カイロ市は再び秩序が回復された。地方に於ても積極的反亂は、事實上鎮定された。併し罷業は中々止まぬ。黒幕政治家から命令が罷業委員に降る。見張番が公然威嚇を加へる。復業を希望するものも見張番に追ひ返へされる。終に軍隊警護の基に四人を動員して、市街を掃除させる。郵便集配人も脅迫されて、一週間も出勤するものがない。電車の乗務員も出たり、引込んだり、天氣を見て居つたが、英兵に護衛されて、執務する事となつた。

四月十二日、電車の車掌や、商人が、示威の爲めに窓を閉ぢよと命ぜられ、之を拒んだ爲めに、硫酸を浴せられた。同樣の事が十四日に十四件、十五日に四件あつた。十六日には軍令で硫酸を使用するものは死刑に處すると云ふ告示が出た。それで硫酸の使用が止むだ。然るにここに又、國民警察と稱し、表面秩序の維持を助くると云ひ、其の實は暴力革命家の蠢行を敢てする、一團が顯はれた。勝手な記章を用ひ、役員を設け、組織的のものであつた。併し、アレンビー將軍は、戒嚴令により、之を解散した。更に防止に困難なるは、檢閲官の許可を得ざる秘密な小冊子、落書、無認可の新聞紙等による、裏面の煽動である。彼等は之を利用してサルタン王、國務大臣、罷業者、その他彼等の所謂國賊なる純良な市民に惡罵を浴せた。學生、兒童の如きも、文部大臣の戒告にめんじて、父兄の與へたる懇請には、耳を借さず、學業を愛するは、國家を愛するに及ばずとし、學業を怠るは愛國の故なりとして休校した。

學生は如何なる惡戲にも堪へた。甚しきは、彼等の行爲は歴史を作るものだと信じた。或る英人教師に向つて、「先生は埃及革命は佛國革命以上に、光輝あるものと思ひませんか」と眞面目に質問した生徒さへある。官吏中の不逞漢の口實は、之れ又、非常なものであつた。カーゾン卿が上院で、埃及事件につき演説中「埃及に於ける、不祥なる事件中、甚だ滿足に堪へざる現象は一般官吏、軍隊、警察官の態度である、特に、警官の態度は、最も當を得たものである」との一句があつた。官吏側の特別委員は之に對して、警官が職務に忠實なりしは、之を以て、彼等の義務なりと考へたのであつて決して、警官が國民共通なる反英の感情を懷かざるが爲めでない。又その位置に留まりしは、決して反英思想に反對し又は之を嫌ふが爲めでもないことを聲明した。委員等は、この趣旨の宣告書を起草して、之をソルタン王に捧呈した。同時に。カーゾン卿の演説に反抗の意を表する爲め、二日間の同盟休業をすると宣告した。

四月三日埃及人は總て缺勤した。電信局其の他一、二官廳に於ては、何かの誤解で、前日から休業した。官吏の同盟休業に威勢を添へる爲めに、三日に大示威運動が計畫されたが、例のアバーヂン街の大騒動で、この方は目茶々々になつてしまつた。四日はマホメット教の祭日で、諸官署とも休日であつた

五日は同盟休業は終つたのだが、出勤するものは、始めから休業を餘り好まなかつたもののみであつた更に官吏の特別委員會が開かれ終に妥協が行れた。即ち主義としては復職する事になつたが、國民の輿望が納れられる迄は、反抗の意を表する爲めに、毎月曜日に官吏一同缺勤する事になつた、温和派は之を勝利とした。併し、過激派は、之に反對して、國民の希望を滿すことが、總ての同盟罷業を終熄せしむる唯一の途だから、國民の希望が納れらるゝまでは、罷業を中止せぬと主張した。七日にはザグラル外三名の首領が放免されたと云ふ報が達した。そこで過激派は、國民的歡喜に加はるべしとなし、缺動を勸誘し、又その當時組織中なりし新内閣より滿足なる保證を得る迄は、出勤すべからずと勸告した。九日ラシヂー、パシャが首相として就職した。彼は直ちに新聞紙を通して、一般國民及官吏が平素の業務に就かん事を勸めた。併し官吏に對しては有効でなかつた。而已ならず、終に官吏特別委員は最後の通牒として、下の如き復職條件を新内閣に提出した。

一、内閣は埃及代表を國民の正當なる代理なりと公式に承認する事

二、内閣は英國保護統治を非認する事を宣言すること

三、英國の歩哨及び衛兵を廢し、埃及兵を以て之に交替せしむる事

閣員と官吏委員とは日々交渉を重ねた。凡そ。如何なる内閣と雖も、下僚のものに、かゝる條件を強要せられて、之を承認するものはあるまい。又事件が全く閣員の權限外である。三日間殆んど晝夜兼行

で談判した。官吏委員中には次第に暴慢不遜の度を加へた者もあつたが、冷靜なる委員等は、今や、到底自分等で、事を纏める事の不可能なるを知り、首相に建言して更めて、一の勸告書を發し、單に官吏のみならず、一般の罷工者に復業を勸めさせた。此の勸告書は四月十三日に發表されたが、何等の効果をも齎らさないばかりでなく、反つて煽動家を激せしめた。彼等は盛んに國務大臣を誹謗し、又温和派を國賊と稱して痛罵を加へ愈々大同盟休業を宣告した。四月十五日に政府は官吏が直ちに復業する樣再び勸告した。次の日軍司令長官は官吏其の他のものに對し、威嚇を以て、其の勤務を防害するものは爾今捕縛すと告示した。不逞官吏は埃及政府の總ての政策を左右せんとして、猶罷業を繼續中である。首相も失望の極四月二十一日辭職した。内閣の命脈は僅かに十二日間であつた。アレンビー將軍も、今は止むなく全責任を一身に引受けて、國事に當る事となつた。將軍は成るべく、差し控へて埃及の國務大臣をして、國事に當らしめんとしたのであるが、國家は何時迄も無政府の狀態で濟むものでない。官吏の罷業は地方には傳染しなかつた。併しカイロ市は國家行政の中樞である。それが六週間も官吏の罷業が續いたので、各省の公務が全く紊亂してしまつた。官吏の大多數は登廳しても、罷業の話で、もちきりである。罷業の計畫を役所で相談すると云ふ調子である。英人の顧問官や、下級の英人官吏が健氣にも罷業に加盟せず、罷業煽動者の密偵の攻擊を冒して、執務して居る極少數の埃及官吏の加勢を得て、出來る限り、事務を進捗させたのである。密偵は多く埃及婦人で、各省の門に立番し、出入の高官を國

賊と呼び、惡罵を浴せたり、上衣をつかまへて、引き留めるのてある。他の罷業と同樣、官吏の罷業も脅迫が可なり有効に働いて居る。而かも非常に責任あり勢力ある位置に立つ多數官吏が、一般市民に對し、罷業の好模範を示す限りは、一般的罷業熱を冷却せしめんとするも、無効である。よしや、新内閣が組織せらるゝとしても、ラシヂー内閣が、如何ともする能はざりし、時局を拾收するは不可能であらう

ラシヂー内閣辭職の翌日、アレンビー將軍は、軍司令長官の職權を以て、布告を發し、官吏に即時に復職して、各、其の任務を有効に遂行せん事を求めた。又暴力の威嚇を以て官吏の復業を防止するものは、嚴罰に處する事、官吏の無斷缺勤中は、俸給を仕拂はざる事、此の告示發布の翌日になるも、猶出勤せざるものは、辭職者と認め、職員名簿より除名する事、言語、脅威、又は暴力を以て此の告示に服從せんとするものを防害するものは、軍法に問はるる事等を告示した。猶、同日附にて長官は米國領事館より、米大統領ウヰルソンも埃及に於ける英國の統治を承認する旨の通知に接したと發表した。埃及獨立黨は此報を得て、平和會議より援助を受くる希望全く絶へたるに驚愕した。

罷業官吏は若しアレンビー將軍にして、地方に於ける積極的反亂を鎮壓したる如く有効に、消極的反亂を鎮靜するに至らば、逃亡に巧なる、黑幕政治家は巧に逃亡し、責任を問はるるは、札附者も同樣なる官吏である事を確知した。

そこで、罷業者中、最も先に、復業したものは、官吏であつた、或る者は恐る〳〵、多數のものは、猶不滿そうに怒氣を含むで登廳した。大學、中學、專門學校の學生、生徒にして、所定の期日迄に復校するものが相當の數に達せざれば、學校は閉鎖するとの嚴命が降つた。これ亦結果が良好であつた。首謀者は當分停學を命せられた。辯護士は一層簡短に出廷した。其の他の罷業者は自發的に復業した。公然の煽動は直ちに止んだが、寺院や秘密に配布せらるゝ劣惡なる冊子を利用する、煽動的講話は猶行はれた。結局官吏の同盟罷業は政治の安定を根柢から覆へした。

如斯見來れば、今回の消極的反亂は、主としてカイロに局限されたが、埃及全土に涉る積極的反亂よりは意義重大にして、その結果も更に永續的のものであつた。また此の暴動により、英國統治に密接なる關係を有する各部、局に對し、徐々に蓄積されたる强烈なる反英氣分を、始めて曝露したのである。斯くて反亂は更に新なる政爭の有力なる原動となり、遂に保護統治の撤廢となり、侵略者(英國)の後見より完全に開放されんと爭ふに至つたのである。且前代未聞の官吏の同盟罷業は、辯護士の罷業や、土着の教員に援助せらるゝ學生の罷業と等しく官憲の威嚴に大打擊を與へる。一端威嚴を失すれば、容易に回復の途はない、外面的に云へば、此の消極的反亂は戒嚴令の壓迫により、瓦解せし觀があるが、實は埃及政府を倒したのである。又此の暴動を誘致した精神は直ちに復活して内閣の更迭位では、效果のない程の政治的難關を來した。單に閣臣を辭職せしむるに止ちず、進んでは、埃及占領當時より、今日に至る迄、確信せられたる定說、即ち埃及大臣は重大事件に關し、英國の注告に隨ひ進退すれば、英國

の統治が行はるゝのみならず、大臣も亦威信を保つに必要有效なる援助を受くべしとの定説に疑念を懷くに至つた。ラシヂー内閣の辭職は英國政府の希望に背きし故でもなく、亦之に從ひしが爲でもない、唯單に獨立黨の有せし勢力は内閣にとつて餘りに偉大であつたからである。英國の内閣大臣は今回の暴動の眞相を直視するには、多くの時間を要したが、結局今後英國統治を維持することは、英國政府と埃及獨立黨との直接問題となつた。その結果埃及閣員の位置は、各省の首席と云ふに過ぎずして、單に慣例の事務を執行し、一般的政局には、何等の勢力なきものとなつた。アレンビー將軍は四週間にして、漸くモハメッド、サイド、パシヤをして、新内閣を組織せしめた。

サイド首相が、國民主義の大潮流に勝ち能はざるは、ラシヂーと何の選ぶ所もない。彼の在職八個月間に、政治的活動の中心は、カイロよりパリーに移つた、しかも、パリーにはザグラルの在るありて、首相にも優れる權威を以て、カイロ國民黨委員に進軍の命を下し、國民のために戰ふ、黨人を活動せさるのであつた。今後の政局果して如何。

追記

一九一九年三、四月の埃及大暴動が、軍隊の力を以て鎭靜に歸したのは前段述べた通りである。同年末英國は時の殖民大臣ミルナー卿を埃及に派遣して實況を調査せしめその報告を待つて國策を樹てんとしたのである。一九二〇年八月ミルナー卿と埃及國民黨領袖ザグラルとの間に埃及自治案が協定された埃及國民は之に滿足せず、獨立承認を求めて止まなかつた。英國議會に於ても輿論が承認非承認の二派に岐れて、容易に決しなかつた。一九二二年三月埃及統監アレンビー將軍は歸英の上、本國政府と獨立問題について協議する處があつた。同三月十五日英國議會は埃及獨立案を議定し、埃及王は獨立を宣布した。埃及新憲法の發布されたのは本年四日二十日である。茲に埃及は多年の希望を滿たしたのであるが英國と全く無關係になつたと云ふのではない英國は多少後見權を保留して居るのである。尙埃及獨立に關する詳細は稿を改めて述べることにする。

終